

## 活性化

- 多世代交流のイメージ
  - スペース？講座？どのような仕組み？
- 若い世代、働き世代をどのように取り込むか？
  - 貸館として？講座？スペース？
- コミュニティの活性化
  - 具体的なイメージは？どのような仕組み？
- 公民館と他機関との連携
  - 学校連携、地域連携、民間等との連携強化

- 諸室の一つを交流スペースにできないか。
- チラシやポスターを見て、公民館主催講座に申込みのような工夫
- きれいな施設や備品、使いやすいWi-Fi環境
- ポータルサイトなどわかりやすい周知が必要
- 若い世代が自分たちで企画して参加できるような仕組み
- 中高生の居場所づくり。中高生との意見交換
- 未利用時間帯のアピールが足りていない。

## 減免、受益者

- 減免範囲の対象
  - どのような活動が行われているのか？
  - どのような団体に使ってもらいたいのか？
  - 習い事活動等の受益者負担は妥当か？

- 18歳以下の団体は無料が妥当
- 塾や習い事は受益者負担が妥当
- 他市では、一定額以上徴収している団体の利用を認めていない事例もある。
- 月謝や会費を徴収している団体は受益者負担が妥当
- 月謝や会費を徴収するにしても、（趣味や）習い事と公共性の高い活動とで扱いを変える必要がある。
- 使用料を徴収する場合と徴収しない場合とで明確に区別する必要がある。グレーゾーンは出てきてしまう。
- 英会話活動にしても、受験目的と多文化交流とで取扱いを変えるかどうかは協議が必要
- 会費か月謝か、実費か収益かの区別が必要
- 主催講座からのサークル立上げについて、一定期間、減免を設けることなども考えられる。
- 公民館活動に協力してくれる団体に対するインセンティブの検討
- どのような団体に利用してもらいたいのか、それが減免対象の考え方の基準となる。

## 利用ルール

- 公民館の使い方、利用のルール
  - 無断キャンセルの取扱い
  - 市外在住等の構成員の取扱い
  - その他、不適切な利用の抑止策について
  - 個人利用の可否

- 公民館使用団体が増えるほどルールがおざなりになっている。活性化や減免対象と並行した検討が必要
- キャンセル料の取扱い
- 18歳以下の団体の利用ルール